

簡易止水板「Flood Guard (フラッドガード)」を製造し、2023年にグッドデザイン賞、2025年に防災グッズ大賞 防災用品部門大賞を受賞されたフジ鋼業(株)の藤井社長に止水板の製造背景についてお話を伺いました。

ものづくり技術を活かし、防災分野の最前線へ

創業から今年で60年になります。元々は、三木市で金物などの機械をオーダーメイドしており、培った技術力から、農機具(チップソー)の製造販売へと切り替えて、現在も主力事業となっています。

転機となったのは5年前です。国内外で猛威を振るう台風被害を目の当たりにし、その際に中国メーカーの「止

備えあれば、憂いなし!

止水板で新たな防災



フジ鋼業株式会社

代表取締役 **藤井 健吾** さん

水板」に着目しました。初めは輸入品を販売していましたが、性能テストをした際に、物足りなさを感じ、自社で機能改良した独自の止水板の開発に着手しました。満足できる製品を作るために、金型から製作。自社のプール内で、幾度もの防水実験を繰り返し、「フラッドガード」の製品化に至りました。

「1センチ」のスキマも許さない品質へのこだわり

フラッドガードの最大の特徴は「1センチのスキマも空けないように」と徹底した漏水対策にあります。ユーザーが有事の際に困らないように、代理店が必ず現地調査を実施し、設置場所の条件に応じた必要個数の提案やアドバイス、使用方法のレクチャーを行います。

もう一つの強みは、豊富なバリエーションです。国内では主に高さ50cmと80cmの製品を展開し、海外では一段高い製品も提供。全9種類を揃え、湾曲タイプや長さ調整が可能なアイテムも用意するなど、様々な場面で漏水を防げるように商品展開を行っています。

性能面では、1台につき最大300kgまでの水圧に耐えることができ、重さは50cmタイプで1台あたり4.4kg

と、一般的な土のう(50cmで約25kg)と比べても、とても軽量です。また、本体は樹脂製で誰でも容易に持ち運べ、繰り返し使用することもできます。

国内外で広がる活用と今後の展望

中国などでは国を挙げて止水板の導入に取り組んでおり、すでに地域防災に大きく貢献しています。一方、国内ではまだまだ

知名度が低い

ため、

当社は展示

会出展など

を通じて認

知度と防災

意識の向上

に努めてい

ます。

直近では水害対策以外にも、川の急流部分で魚の遡上を助けるためにフラッドガードを設置して、流れを緩やかにする実験に活用されるなど、製品の新たな可能性も広がっています。

災害級の大雨から、会社の財産である機器や商品、そして社員を守るためにも、より良い防災グッズを取り入れ、企業防災に努めていただきたく思います。私たちも現状の性能に満足せず、これからも改良を続けてまいります!



中国でのフラッドガードの使用事例